

経頭蓋磁気刺激 (TMS) について

慈恵医大附属病院を含めた我々の講座の関連施設に入院

(通常は2週間入院)してTMS治療を施行された患者様の数は、すでに3,000人を超えており、もはや世界的にも注目を浴びるにいたっています。

TMSとは、頭の皮膚の表面から大脳を部分的に刺激する装置です(苦痛は 全く伴いません)。TMSを連日で行い大脳を刺激することによって、大脳のリハ訓練に対する反応性が高まり、脳卒中によって障害された機能の回復が促進されることが明らかとなっています。

我々の講座では、脳卒中後の上肢麻痺、失語症、下肢麻痺、嚥下障害に対してTMS治療を積極的に行ってきており、非常に良好な治療成績をあげています。特に、上肢麻痺に対しては、“NEURO®”と名づけた「TMSと集中的訓練の併用療法」を試みしていますが、これによって「数年間にわたり麻痺していた手指が、少しずつ動き出す」「言葉がでやすくなった」など、画期的な治療成果がみられています。

詳しい内容については当講座の

HP([NEURO～磁気刺激治療の受け方](#))をご覧ください